

1 学力向上検討委員会構成

学 力 上 向 検 討 委 員		
	職名・校務等担当名	氏名
管理職	校長 教頭 教頭 教頭	名山 優 山下 由美 都築 睦美 岩寄 淳子
学力向上推進員	主幹教諭	吉本 佑司
委員	教諭 小学部長 教諭 中学部長 教諭 高等部長	松崎 規恵 森 しのぶ 南本 みどり

2 学力・学習状況における現状分析、目標等

【3つの視点】

- (1)基礎的・基本的な知識・技能の習得
- (2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成
- (3)主体的に学習に取り組む態度の育成

( 小・中学部 ) 幼 児 児 童 生 徒 の 状 況		
よさ	小学部では各自の支援ツール等を活用し見通しを持って安定した生活を送ることができている。 中学部では、将来を見据えて個から集団への活動に移行できるような教育活動を通して、互いの個性を認め合いながら学習することができている。	課題 小学部では、身体の動き・認知・社会性に発達のアンバランスが見られる。 中学部では新学習指導要領に基づいて、生徒が意欲的・主体的に取り組むことができる学習内容をより充実していくことが必要である。
具体的目標(目指す子どもの姿)	成果指標	達成状況
〈小学部・中学部〉 個々の児童生徒の将来の社会参加に向けて必要と判断される知識・技能・態度を身に付け、集団や社会の中で共に生きていく態度が身につく。	〈小学部〉 個別の指導計画の自立活動における目標の達成率が80%を超える。 〈中学部〉 個別の指導計画の目標にもとづく研究授業及び協議、公開授業に中学部で年間10回以上取り組む。	〈小学部〉個別指導、グループ指導ともに98%の達成率を得ることができた。 〈中学部〉年間10以上の研究授業や協議、人権教育研究大会で公開授業を実施した。個別の指導計画の目標にもとづく授業で集団活動や人と関わる学習に取り組むことができた。 評価 A
具体的方策(教員の取組)	取組指標	取組状況
〈小学部〉 発達段階に応じた自立活動グループを編成し、授業実践する。 〈中学部〉 全学年において、個別の指導計画の目標に沿った授業研究や授業実践への取組を計画実施する。 * 中間期の見直し	〈小学部〉 ・4月中に個々の自立活動シートを作成し、夏季休業中にケース会議を実施する。 〈中学部〉 ・5月の学年会等で学年の教員間で生徒の実態や目標について把握する。 ・各学年3回以上研究授業及び協議、公開授業を行う。	〈小学部〉今年度改訂し、個々の課題と目標を明らかにし、自立活動シートを作成した。それを活用して全児童のケース会議を実施し、授業に生かすことができた。 〈中学部〉学部会や学年会等で、学部、学年教員間で生徒の実態把握、目標の共有をし各授業の計画立案を行った。中学部で年間10以上の研究授業や協議を行い授業実践の検討・改善を行うことができた。
達成状況を踏まえた改善事項		
小学部では、今年度自立活動シートを見直し、児童の課題や目標をより明確に記入できるよう工夫した。そうすることで、個々の児童について共通理解を図りやすくなり、授業の実践、改善に役立てることができた。しかし、シート作成に当たってはまだ課題が残る。より効率的に作成、活用できるよう検討を重ねていきたいと考えている。 中学部では、定期的に行っている学部会や学年会、各学年での研究授業・協議を通して、生徒の実態や目標の共有を図ることができ、学年で一貫した指導を行うことができた。年度末に今年度の学習の状況(指導形態、目標など)の確認と来年度の計画について検討し、新年度の生徒の実態の共有や、各授業における目標・年間計画の立案につなげることで、個々の生徒の目標達成につながると考えられる。		